

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

ダストシュートから迎えるシンガポールのごみ処事情

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 黒岩 由佳 (宮崎県派遣)

シンガポールでの2年間の赴任期間も残り僅かとなりましたが、筆者はずっと気になっていたことがあります。シンガポールの家庭ではごみを分別することなく、いつでもダストシュートを通して捨てるのが可能です。果たしてこのごみはどこへ行くのか、また、分別はどうなっているのか、帰任前にこの謎を解き明かしてみようと思います。

→ダストシュートとは？

ダストシュートは高層建築物に設置されるごみ捨て設備で、各家庭にある投入口からごみをチューブ状のシューターで1階や地下の集積所へ運ぶ仕組みとなっています。シンガポールは国土面積が狭いことから、HDB住宅(住宅開発庁により建設される公共住宅)やコンドミニウムといった高層住宅が建ち並び、このような環境においてごみを集約するためには、ダストシュートの仕組みが効率的なように思われます。なお、ダストシュートに入りきらない大きなごみは地上に設置されているごみ捨て場へ持って行きます。

ちなみにゴキブリがこのダストシュートをよじ登ってきたり、開閉時の臭いがひどい所もあり、人によってはダストシュートは使用せず、地上階のごみ置き場までごみを持って行くという話も聞きます。



我が家のダストシュート

→シンガポールのごみ処事情

シンガポールは1年中高温多湿な気候で、生ごみが腐りやすいといった事情からごみは毎日回収されます。①



国内の焼却場と最終処分場の地図(注3)

各家庭がダストシュートにごみを投入、②政府から委託を受けている回収業者が専用のトラックで回収、③

焼却場などへ運ぶという流れです。収集されたごみは国内4カ所の焼却場で焼却され、それによって生じた焼却灰と、焼却不可能な残りの廃棄物をセマカウ島という最終処分場で埋め立て処理しています。また、焼却した際に発生した熱を利用した発電も行っており、電力需要の最大3%をまかなっています(注1)。

→シンガポールの分別はどうなっている？

筆者が一番気になっていたのが、ごみの分別です。日本では分別は各家庭が行うイメージでしたが、シンガポールではダストシュートにさまざまなごみを分別せずに投入し、ごみ回収・処理業者が分別を行います。

以前、シンガポールの環境持続省(MSE)を訪問した際に聞いた話では、SDGsが重要になっている現代において、国民に分別の意識を持ってもらいたいが、まだ定着していないということで、まずはリサイクルの重要性を周知していくところから進めていきたいということでした。

なお、シンガポール政府としては、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推奨しており、ペットボトルや洋服などのリサイクルボックスの設置や国民への周知を行っています(注2)。筆者も帰任を目の前にし、いつの間にか増えてしまった洋服をリサイクルすべく、リサイクルボックスを利用しましたが、ボックスが満杯になっていたことから、意識している人もいることを感じたこの頃です。次回シンガポールを訪れる時にはどうなっているか、今後もシンガポールのごみ処事情に注目していきたいと思います。

(注1) 1SG101, Waste Management, [https://www.sg101.gov.sg/infrastructure/case-studies/wm/] (最終検索日: 2025年1月22日)

(注2) 国家環境庁(NEA), 3R Programmes and Resources, [https://www.nea.gov.sg/our-services/waste-management/3r-programmes-and-resources] (最終検索日: 2025年1月22日)

(注3) 一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所「シンガポールの政策 環境政策編」p12(2021年8月発行) [https://www.clair.org.sg/j/wp-content/uploads/2021/10/5b913af8a82e29c2be4e7b7d5b30c463.pdf] (最終検索日: 2025年2月21日)